



Catillaria Bouteilli A. ZAHLBR. on the leaf of *Abies firma* SIEB. ET ZUCC. もみ葉上ニ着生セルひのきのあをばごけ (enlarged)

(舊軒原圖)

送サレタ標本ヲ見ルトコレハひのきの葉ニ着テ居ルモノデ同様ニ子器ガ發達シテ居ル、要スルニ本地衣ハ吾國ニモ廣ガツテ居ルコトハ確實デアルガ植物病菌學ノ書物ニハ未ダ何モ書テナイノハ害物トシテ取扱ハレテ居ラナイノカモ知レナイ

和名ヲひのきのあをばごけト命名スル

○古事記ニ見エシ植物(承前)

理學博士 白井光太郎

伊邪那岐命ガ桃ノ三ツヲ取ツテ、其追ツテ來タモノニ抛ツタノデアリアス、サウシタ所ガソレヲ拾ツテ喰テ居ル間ニ逃ダレタトイフコトニナツテ居ルノデアリマス、此桃トイフモノガ神代ニアツタコトニナツテ居リマスケレドモ、桃ハ野生ノナイモノデ日本固有ノモノデハナイラシクアリマス、桃ハ何處ノモノカトイフト、支那ガ桃ノ原産地トイフコトニナツテ居リマス、歐羅巴ナドニモ支那カラ段々傳ハツタトイフコトニナツテ居リマス、歐羅巴ヘハ中央亞細亞カラシテ、羅馬時代ニ桃ガ移植セラレテソコデ始メテ歐羅巴ノ書物ニ桃ガ載ツタノハ PLINUS トイフ羅馬ノ植物家ガ著シタ書物ニ載ツテ居ルノデス、プリニウストイフノハ、西曆二三年ニ生レテ七八年ニ死ンダ人デアリマス、ソレヨリ前ニ羅馬ノ博物家ノ書イタ書物ニハ桃ハ載ツテ居ラナイノデアリマス、此人ノ時始メテ、支那カラ歐羅巴ノ方ニ桃ガ傳ハツタトイフコトニナツテ居リマス、日本ナドモ神代ニ桃ガアツ

タトイフノハ其時分ニ支那カラ來タモノト見ルヨリ外、仕方ガナイノデアリマシテ野生ハ無イ譯デアリマス
 ソレカラ天の波々迦トイフモノガ古事記ニ載ツテ居ルノデアリマス、是ハ古事記ヲ見マスト、「内拔天香山之眞
 男鹿之肩拔而、取天香山之天波々迦而、令占合麻迦那波」トイフコトニナツテ居リマス、天波々迦トイフモノガ
 木ノ名トイフコトニナツテ居ル、此波々迦トイフ木ヲ取ツテ鹿ノ肩骨ヲ拔イテ其骨ヲ焼イテ、サウシテ占ヲシ
 タトイフコトニナツテ居ル、此波々迦トイフモノハ古イ名デアリマシテ、今日ハ一寸疑ハシイ植物ニナツテ居
 ルノデアリマス、之ニ就イテ色々ノ説ガアリマス、和名鈔ニハ此波々迦トイフ植物ガ載ツテ居ル、朱櫻トイフ
 漢字ガ當テ、アル、本草云櫻桃波々迦一名爾波佐久良トアル、和名鈔ニハ波々迦トイフノハ朱櫻トイフ字ガ當
 テ、アツテ、サウシテ櫻桃、波々迦トイフ註ガ書イテアリマス、朱櫻一名櫻桃、波々迦一名爾波佐久良トイフ
 コトニナツテ居リマス、波々迦ハ朱櫻トイフモノデアルコトハ是デ分リマスガ、朱櫻トアルカラ櫻ノ種類ト先
 ズ認ムベキモノデアリマス、之ヲ是マデ色々考ヘタ人ガアリマス、一寸今ハッキリ覺エテ居リマセンヌガ、古
 事記傳ニハ波々迦トイフモノハ樺トイフ木デアルトイフ考ニナツテ居リマス、其他古名錄デアルトカ、古今要
 覽稿トイフ本ガアリマスガ、斯ウイフヤウナ本ニハ皆波々迦ヲ樺トイフ木ダトイフコトニナツテ居リマス、ソ
 レハドウイフ譯カトイフニにはさくらトイフノハ、此處ニカノ字ガアルノガ拔ケタノデアアル、かにはさくらト
 イフベキヲにはさくらトシタノデアアル、かにはさくらハかばデアアル、かばノコトハかにばトイフ、和名鈔ナド
 ニモかばハかにはトアル、其他本草和名ナドニモかばニかにはトイフ和名ガアルトシテアル、ソレカラ考ヘテ
 にはさくらハかにはさくらノ誤デアルトコジツケタ譯デアツテ別ニ證據ハナイ、和名鈔木具部ニ樺和名加波一
 名加仁波ト別條ガアリマス、同ジかばヲ朱櫻ト書ク譯ハナイノデアリマシテ、之ガかにはノ誤リトイフコトハ
 受取レナイ、別ニかばノ外ニはさくらトイフモノガアツタニ違ヒナイノデアリマス、ソコデ尙ホ此波々迦ニ就テ
 是ハ今日ノ何デアアルカトイフコトヲ考ヘタ人ガ、古イ人デハ野呂元丈トイフ人ガアリマス、波々迦ヲ今ノ植物

ノ何ダトイフコトヲ考ヘテ、是ハうはみづくらデアルトイッテ居ルノデアリマス、ソレハ神巷談苑トイフ書物ニアリマス、是ハ神原玄輔トイフ人ノ作ッタモノデアリマス、コノ人ハ二百年位前ノ人デ寶永三年ニ死ンダ人デアリマス、コノ神巷談苑ニ斯ウイフコトニナッテ居リマス、「波々迦の木とはトする時に龜を焼く木なり(トアル、是ハ龜トトイフノガ壹岐國ナドニ傳ハッテ居ルサウデアリマスガ、其龜トニモ波々迦トイフモノヲ用キルノダサウデアリマス)波々迦とはトする時龜を焼く木なり香具山の波々迦の木を用ゐるとぞ、(是ハ香具山ハ古事記ノ香具山デアルカラ、サウスルト是ハ龜トデナイ鹿トデアリマスガ、サウ書イテアル)昔より龜トは公家に傳はッて今にあり、思金命香具山の鹿の肩を焼き占ふに波々迦の木を用ゐ給ひしとぞ、波々迦は今のイヌザクラといふ木に似て北國にてミヅ、又ウハミヅ、ミヅメサクラともいふ實をサクラボンといふとぞ野呂元丈申されし」ト書イテアリマス、野呂元丈トイフ人ガ斯ウイフコトヲイフテ居ル、即チ龜ト、鹿トニ用キル波々迦ハうはみづトイフさくらデアルト申サレタトイフコトニナッテ居リマス、此野呂元丈トイフ人ハ享保ノ時分ノ醫者デアリマシテ、又本草トイフ學問ヲシタ人デアリマス、日本ノ色々ノ高山ナドヲ探藥ニ歩イタ人デアリマス、其人ガ此波々迦トイフモノハうはみづトイフさくらデアルトイッタコトニナッテ居ル、之ガ何故此波々迦ガうはみづデアルトキメタカトイフコトハ書イテナイノデアリマス、此波々迦ガうはみづデアルトイフコトハ野呂元丈トイフ人ガ何カ覺エル所ガアッタノデアリマセウガ、此文デハ波々迦ガうはみづデアルトイフ證據ガ見エナイノデアリマス、ソレデ段々私モ波々迦ノコトニ就テ諸國ヲ歩ク中トカ書物ヲ見ル中ニ、波々迦ガうはみづデアルトイフコトノ證據ヲ索メタノデアリマスガ幾ラカ得ル所ガアルヤウニ考ヘマシタ、ソレハ何カトイフトうはみづトイフノハさくらノ種類デアリマスガ是ニハほうご、ほんごうさくら、ほうごうさくら、こんごうさくら、斯ウイフヤウニ方言ガアル、日光邊リデほうごト呼ンデ居ル、本邦ノ假名遣デハはガニツアルト延ビルコトニナッテ居ル、はさきト書イテほうさ、はさそト書イテほうそトイフ例カラ見マストはさかほうか

トイッタニ相違ナイ、サウスルトほうかトほうごトイフコトハ、非常ニ近イノデアリマスカラ、方言カラは、
 かガうはみづさくらデアルトイフコトハ考ヘルコトガ出来ルト思フノデアリマス、段々ほんごうトカこんごう
 トカイフノハ、之ガ訛ッタノデアリマシテ、元ほうかトイッタモノガほうごニナツテ傳ヘラレタモノト考ヘル、
 ソレ故ニ今度御大禮ノ時ニ矢張り鹿トヲ御用キナサルコトガ必要デ、はゝかトイフモノヲオ用キニナルニ就テ、
 日光カラうはみづさくらほうかトシテ御取寄セニナツテ、ソレヲ御用キニナツタトイフコトニナツテ居リマ
 スガ、先ヅうはみづさくらガほうかデアルトイフコトハ、方言デ證據立テルコトガ出来ルカト思フノデアリマ
 ス、尙ホほうかトイフ木ニ就イテ諸國ヲ歩ク中方言ヲ探シテ見マス、今日ほうかト古名其儘ヲ呼ンデ居ル植
 物ガアルノデアリマス、紀州ノ熊野ニ其木ガアリマス、畔田伴存トイフ人ノ著シタ熊野物産初志トイフ書ニ、
 ほかのさトシテ圖説ガ出テ居リマス、サラバ熊野デほか又ほうかトイフノハ何カトイフト、是ハひゝらぎがし
 又たでさトイフ木デアリマス、是ハ暖地ニ生エル木デ、矢張りさくらノ類デアリマス、今ノうはみづさくらト
 似テ居ルノデアリマス、花ガ穂ニナツテ咲クモノデアリマス、併シ葉ハ常緑デ、始終葉ガ落チナイノデアリマ
 ス、サウシテ見ルト昔ほうかトイッタモノガ二通りアツタコトニナル、うはみづトイフノハ落葉スルノデアリ
 マスガ、ソレガ一ツノほうか、ひゝらぎがしトイフモノハ常緑ノ葉ガ落チナイ所ノほうかトイフ譯デアリマ
 ス、木ハ似テ居ルモノデ同ジさくらデ、花ノ咲キ方モ穂ニナツテ咲キマスモノデアリマス、うはみづさくらト
 イフモノハ、穂ニナツテ咲キマスモノデアリマスガ、又ひゝらぎがしトイフノモ、花ガ穂ニナツテ咲キマスモ
 ノデアリマス、タゞ葉ガ常緑デアツテ縁ニ棘々ガアリマス、サウシテ見ルト方言カラ考ヘルトほうかトイフノ
 ハうはみづさくら、ソレカラひゝらぎがしトイフ二通りノ植物ガアツテ、ソレヲ古代デハ兩方トモはゝかトイ
 ツタモノカト考ヘラレルノデアリマス、尙ホ壹岐デハ龜トトイフコトヲスルノデアリマス、其龜トハほうかト
 イフモノヲ用キルトイフノデアリマス、其ノほうかノ木ハドウイフモノデアアルカトイフト、今實際取寄セテ見

野州日光ニくまのぢやうじけ Buxbaumia Minakatae OKAM. ヲ探ル

レバ何トイフ木カ分リマスガ、マダ其處マデ探索シマセヌカラ壹岐デほうかトイフモノハドウイフモノカ實物ハ見マセヌガ、伴信友トイフ人ノ作ッタ正ト考トイフノガアリマス、之ニ龜トニ用キルほうかトイフモノ、圖ガ載ツテ居ルノデアリマス、ソレノ記載ヲ讀ンデ見ルト、何デモ葉ガ常綠デ、一寸花ガ咲カナイ木トイフヤウナコトニ書イテアッタヤウデアリマス、サウシマスルト此後ノひゝらぎガしニ當ツテ居ルヤウデアリマス、ひゝらぎガしトイフノハ、一寸花ノ咲キニクイモノデアリマス、小サイ中ニハ花ガ咲カナイ、老木ニナラナケレバ、容易ニ花ガ咲カナイ、サウイフ所カラ見ルト壹岐ノ龜トニ用キルほうかトイフモノハ、此ノひゝらぎガシカト考ヘラレルノデアリマス、マダ實物ヲ取寄セマセヌカラハッキリシタコトハ分リマセヌ、はうかヲ詞林采葉藻鹽草ナドノ書物ニハはわかのかナドト讀ンデ居リマスガ、是ハ間違ヒデ矢張り續ケテほうかト讀ムベキモノト考ヘルノデアリマス (ツバク)

○野州日光ニくまのぢやうじけ Buxbaumia Minakatae OKAM. ヲ探ル

藥學士 橋 本 亮



Buxbaumia
Minakatae
SH. OKAM.
くまのぢやうじけ
野州日光産
(蕾軒撮影)

昭和六年五月初旬蕾軒先生ノ地衣採集ニ參加シ野州ノ日光湯本ヲ根據地トシ毎日金精峠ト湯本トヲ往復シテ居タ、林間ノ雪ハ未ダ中々深ク道路ト雖モ時々脚ヲ失スレバ膝ヲ沒スル程度デアッタ、或日峠ノ仕事ヲ終ヘテ歸路ニツキ大分湯本ニ近ヅイタ頃、トアル朽木ノ側面ニ妙ナモノガアッタ、ソレハ書物デハ時々拜見シタガ實物デハ始メテノ Buxbaumia 屬ノモノデアアル、而カモ足ノ短イ點ト着生物ガ朽木デアアル點カラ見テくまのぢやうじけト